Technologically mediated sense-making in everyday life: a view from cultural phenomenology



Speaker

Tõnu Viik

トゥヌ・ヴィーク

タリン大学哲学特別栄誉教授
（Distinguished Professor of Philosophy, Tallinn University）

要旨：本発表では、意味形成と文化の現象学的分析にもとづき、技術的装置が、内面化された文化的コードとともに働きながら、日常生活における意味形成を共同で構成する行為主体として、いかに機能するのかを検討する。この分析を踏まえ、最後に、主体性についての関係論的な説明を提示する。そこでは、日常的な認知活動の主体を、自律的な心身的個人としてではなく、人間の個人、他の人間たち、共同体的主体性、制度的役割、文化的コード、そして技術からなる混成的な布置として捉える。

講演日時

2026年12月3日（木）16:00-17:30

＊玄関にてインターフォンで「315」を押してください。

登録はこちらから

言語 英語

講演場所 北海道大学 中央キャンパス総合研究棟2号館 3階 CHAINセミナールーム

開催方法 ハイブリット（オンライン参加のみ登録要。現地参加は登録不要）

主催： 人間知･脳･ AI研究教育センター(CHAIN)
https://www.chain.hokudai.ac.jp
問い合わせ先： office@chain.hokudai.ac.jp

CHAIN